

「Will・Can・Must」の3つの問い

組織心理学者であるエドガー・シャイン博士によって提唱されたキャリア理論の「3つの問い」があります。それは、「①Will=私はなにがしたいのか?」「②Can=私はなにができるのか?」「③Must=私はなにを求められているのか?」の3つで、この①②③の重なりが大きいほど、充実したキャリアになると言われています。

では、キャリアとは何でしょうか。もともとラテン語の「carrus (車輪の付いた乗り物)」から派生しており、轍(わだち)を意味します。轍は、車輪が通った後ろに残るもので、車輪の前にできるものではありません。自分が歩んできた人生を振り返ると、そこには、これまで自分が刻みつけてきた轍が残されているのです。つまり、自らの後ろに広がる足跡を振り返り、これからいったいどこへ向かって、どんな足跡を残したいか。一言で言えば、『あなたはどうか生きるのか?』を考えることが、キャリアを考えるということになります。

そこで、塾生の皆さんに考えてほしいことは、耕人塾のテーマ「世界に誇れる石巻地域にしよう～発信!未来へ～」に向けたマイプロジェクトを考えるにあたって、「Will・Can・Must」の重なる部分を実践してみてもはどうでしょうか。その中で、活動のコンセプト(基本的な考え方)「主体・楽しさ・創造」に向けた爆発的に頑張るエネルギーの一つに“やろうとする気力”、言い換えれば「士気(モラル)」があるのです。

「士」は「之」という文字からきていて、もともと「行く」という意味があるそうです。「志」の語源を調べてみると分かりますが、「志」は「士」に「心」だから、心が向き集まるという意味を持つ漢字なのです。また、「気」には「勢」「力」「活動力」「意志」などの意味があります。

孟子の言葉に「志は気の帥なり気は体の充なり」というのがありますが、気力は志によって率いられていくものなのです。そして、志は心の向き集まる方向、心の指さす方向のことであり、言い換えれば理想とか目標のことなのです。

つまり、人間の持っている気力、活動力というものは、その人の持っている理想や目標によって率いられてゆくものなので、逆論すれば、理想や目標を持たない人には気力や活動力は生じてこないことになることができます。

進歩の様子が自分で分かると次の目標に進みます。小さな目標を達成し、次の目標に向かうための“やろうとする気力”(士気)は、将来に向けての大きく高い理想・目標につながるのではないのでしょうか。

「変わる」ということ

◎「かわっていくことは、こわくない。ワクワクしたいな。明日の自分に」(折原みと)の詩があります。変えられない自分と変えたい自分を、改めて見つめてみませんか。

心が変われば態度が変わる。

態度が変われば行動が変わる。

行動が変われば習慣が変わる。

習慣が変われば人格が変わる。

人格が変われば運命が変わる。

運命が変われば人生が変わる。